指導者用防災ノート
（小学生（低学年）版）

令和３年６月
三重県教育委員会

目　次

指導者用防災ノートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
本冊１　学校で休みじかんに大地震がおこったら・・・・・・・・・・・・・・２
　　２　学校からのかえりみちで大地震がおこったら・・・・・・・・・・・４
　　３　いえにいるときに大地震がおこったら・・・・・・・・・・・・・・６
　　４　そとに出かけているときに大地震がおこったら・・・・・・・・・・８
　　５　台風がちかづいてきたら・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　　６　とつぜんおそう風水害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　　７　ひなんしょですごすことになったら・・・・・・・・・・・・・・・１４
　　しりょうへん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
　　裏表紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
ワークシート
　　①　じぶんのみのまもりかたをしろう・・・・・・・・・・・・・・・・１９
　　②　ひなんマップをつくろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
　　③　災害用伝言ダイヤル（１７１）のつかいかたをしろう・・・・・２１
防災ノート到達目標表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
参考資料
　　三重県地震被害想定調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
　　エピソード等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
　　防災関連ホームページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

南海トラフ地震や台風等の大規模な自然災害の発生に見舞われる可能性のある三重県では、学校現場において災害による被害を未然に防止し、災害発生時における危険回避や避難行動を円滑に進めることが大切です。

このため、県内全ての小中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒に「防災ノート」を配付し、学校における防災教育を推進しています。

「防災ノート」（第８版　令和３年６月）にあわせ、「防災ノート」を用いた防災教育がより効果的に実施されるよう、「指導者用防災ノート」を作成しましたので、ご活用いただくようお願いします。

指導者用防災ノートについて

○ 構成

・ 防災ノート本冊のうち、本冊１から７までについては、学習のねらい、指導上のポイント、回答例、確認、参考、重要、次年度以降の展開例などを、資料編については、学習のねらい、エピソードなどを、裏表紙については、回答例などを、本冊の縮小版とともに収めています。
・ ワークシート①から③については、学習のねらい、活用例、指導上のポイントなどをワークシートの縮小版とともに収めています。
・ 防災ノート到達目標表については、発達段階に応じて系統的かつ計画的に指導していただけるように、防災ノート各版の到達目標を収めています。
・ 参考資料には、三重県地震被害想定調査結果や地震・津波等のエピソード等を収めています。

○ 防災ノートの活用方法

・ 本冊は、総合的な学習の時間や道徳、特別活動を活用して指導することを想定していますが、教科学習の際に関連する部分を取り上げて活用することもできます。
・ 各ワークシートは、児童生徒に家庭で取り組むことを想定しています。なお、本冊を学習する際にあわせて活用すると効果的です。
・ 自治会や自主防災組織、市町防災担当部署、消防等が実施する防災に関する取組とあわせて学習することにより、地域と連携した取組につなげることができます。
・ 学んだ内容を家庭に持ち帰り、家庭での防災対策について話し合うよう指導してください。

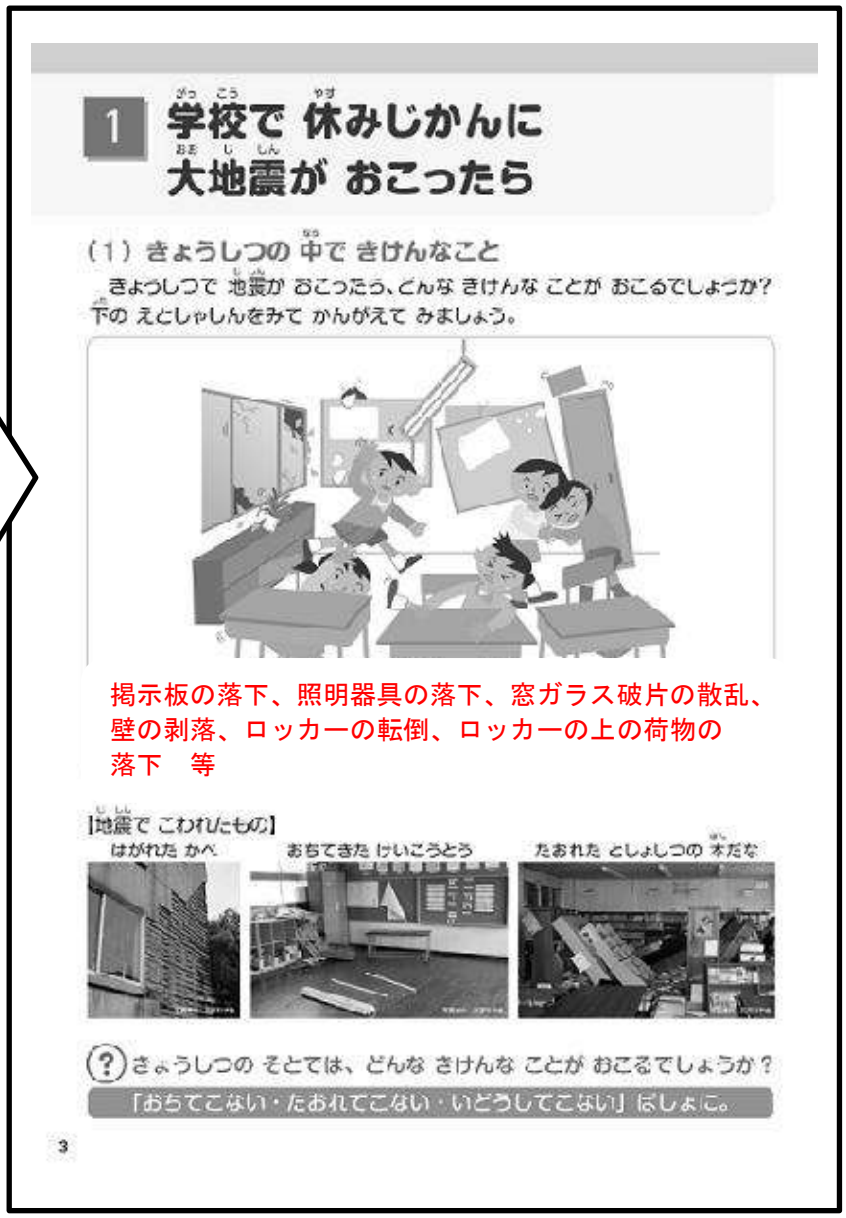
○ 使用上の留意点

・ 災害を経験していない場合は、具体的にイメージしにくいことが考えられるので、必要に応じて資料（新聞記事、被災者の体験談など）を準備してください。
・ 災害を経験した児童生徒がいる場合は、児童生徒の心のケアに配慮してください。
・ 障がいのある児童生徒に対しては、障がいの状態を適切に把握し、障がいの程度に応じたきめ細かな指導を行うように配慮してください。

「１　学校で休みじかんに大地震がおこったら」

学習のねらい：１．自分が通っている学校で、どのような危険が起こるかを知る。
２．校内の場所に応じて、適切な危険回避の方法を知る。
３．避難時に注意すべきことを知る。

（指導上のポイント）
◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
◆自分たちの教室で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
◆教室で身を守る方法について指導する。
　例）机の下に隠れる。
　　窓ガラスから離れる。
◆津波による被害が予想される学校や第１次避難場所が危険な場合は、第２次避難場所への避難が必要になる場合があることを指導する。


1 学校で 休みじかんに 大地震が おこったら

（1）きょうしつの 中で きけんなこと

きょうしつで 地震が おこったら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
下の えとしゃしんをみて かんがえて みましょう。

掲示板の落下、照明器具の落下、窓ガラス破片の散乱、壁の剥落、ロッカーの転倒、ロッカーの上の荷物の落下　等

[地震で こわれたもの]

はがれた かべ　おちてきた けいこうとう　たおれた としょしつの 本だな

？ きょうしつの そとでは、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？

「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

3

《参考》
〇学校で考えられる危険
【教室】時計・放送機器の落下、本棚・ロッカーの転倒、照明器具・天井部材の落下、窓ガラスの飛散
【廊下】掲示板の落下、防火扉の破損
【階段】階段からの転落、壁の剥落
【昇降口】下駄箱の転倒
【図書室】本棚の上段にある図書等の落下、本棚の転倒
【理科室】薬品棚の転倒、実験中の器具の破損・薬品の飛散・引火
【音楽室】ピアノの横滑り、楽器の転倒
【家庭科室】食器棚の転倒、包丁・食器などの落下と破損、ガス漏れ
【体育館】体育器具の落下・転倒
【校庭】窓ガラスの破損と破片の落下、外壁材の剥落、運動用具・遊具の損壊、銅像の倒壊

（次年度以降の展開例）
・学校探検と組み合わせて、地震が起こった時に各所でどのような危険が発生するかを考えさせる。
・避難訓練と組み合わせ、場所ごとの適切な危険回避を指導する。
などが考えられる。

（2）きょうしつの そとで 大地震が おこったら

休みじかんに 大地震が おこったら、どうしたら よいでしょうか？
下の えを みて かんがえたことを かいて みましょう。

こうしゃのそば	ろうか、かいだん
・校舎から離れる。	・本などで頭を守る。 ・手すりにつかまる。
げたばこ（くつばこ）のそば	たいいくかん
・下駄箱から離れる。 ・あわてて外に出ない。	・中央に集まり、身を守る。

ゆれが おさまって、ひなんするときは…。

●校内放送が あったら、しずかに きこう。
●ろうかや かいだんでは、おさない。はしらない。しゃべらない。
●ひなんするときは、われた ガラスに 気をつけよう。
●津波が きそうなときは、いそいで 高いところへ ひなんしよう。
●あんぜんな ところに ひなんしたら、もどらない。

関連学習：ワークシート①
「じぶんのみのまもりかたをしろう」

《参考》

○場所ごとの危険回避方法

【教室】机の下に隠れて、両手で机の脚をしっかり持つ。

【廊下】頭をカバンや本、手で守る。照明器具、窓ガラス、ドアからなるべく離れる。

【階段】手すりにつかまり、揺れがおさまったら安全を確認しながら降りる。

【昇降口】下駄箱から離れる。あわてて外に出ない。

【図書室】本棚から離れ、テーブルの下にもぐる。テーブルまでたどり着けない場合は、持っている本・雑誌などで頭を守る。

【理科室】薬品棚から離れる。

【音楽室】ピアノ、楽器棚などから離れる。

【家庭科室】包丁や皿などが落ちてくることを考え、頭を守る。

【体育館】中央に集まり、身を守る。

【校庭】サッカーゴールなどの体育器具や校舎から遠ざかり、中央に集まる。

（指導上のポイント）

◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、身を寄せることを指導する。

◆地震発生時に教職員がいる場合は、教職員の指示に従うことを指導する。

◆左記以外の各自がよく行く場所での危険回避方法についても考えさせる。

（指導上のポイント）

◆「お・は・し・も」を指導する。【おさない】、【はしらない】、【しゃべらない】、【もどらない】

◆「はしらない」は、廊下、階段でのけがを防ぐためのものであり（校舎内）、外へ避難したら走る場合もある。

◆定められている避難場所、避難ルートを指導する。

◆「津波が来そうなら、急いで高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

◆学校内にあるたくさんの安全施設・設備があることを指導する。

例）非常階段、防災倉庫、防火扉、誘導灯、消火栓、消火器、プール

（確認）

学校での危険に対して、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ、避難できることを理解できたか。

「２　学校からのかえりみちで大地震がおこったら」

学習のねらい：　１．路上で、どのような危険が起こるかを知る。
２．状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
３．避難時に注意すべきことを知る。

（指導上のポイント）
◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
◆絵に描かれている危険の他に、２次災害として、津波、火災・爆発、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、液状化などが考えられるが、地域の実情に応じて追加する。
◆各自の通学路で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
なお、時間があれば、防災タウンウオッチング・マップづくりを行う。
◆通学路で身を守る方法について指導する。
　例）ブロック塀から離れる。
　　自動販売機から離れる。
◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合は危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

2 学校からの かえりみちで 大地震が おこったら

（1）かえりみちで きけんなこと

学校の かえりみちで 地震が おこったら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
下の えと しゃしんを みて かんがえて みましょう。

家屋やビルの窓ガラスの落下、壁の剥落、屋根瓦の落下、看板の落下、ブロック塀の破損・転倒、自動販売機の転倒、切れた電線による感電、石垣の崩落など

【地震で こわれたもの】

たおれた ブロックべい　つぶれた いえ　くずれた 石がき

学校の そとの ほかの ばしょでは
どんな きけんな ことが おこるでしょうか？

「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

5

《重要》
○地域や場所により考えられる危険はさまざまだが、以下の原則を守るよう指導する。
①危険が考えられる場所から離れる。
②駐車場や空き地など広い場所へ逃げ、カバンなどで頭を守る。
③揺れそのものだけでなく、続いて起こり得る火災、停電により信号が停止し、混乱する車等にも注意する。
④津波の恐れがある地域では、揺れがおさまったらすぐに高台などへ逃げる。
⑤危険な場所については、大人が大丈夫というまで近づいてはいけない。

(2) かえりみちで 大地震が おこったら

きけんな ばしょを とおっているときに 地震が おこったら、どうしたら よいでしょうか？
下の えを みて かんがえたことを かいて みましょう。

こうさてん

・信号が停止し、交通事故の恐れがあるので、交差点には近づかない。

がけの そば

・土砂災害の恐れがあるので、崖から離れる。

川や はしの ちかく

・津波は川をさかのぼるので、川から離れる。古い橋は崩落の恐れがあるので、橋から避難する。

うみの ちかく

・津波の恐れがあるので、高い所へ逃げる。

ゆれが おさまって、ひなんするときは…。

- 放送が あったら、しずかに きこう。
- その ときに いる ばしょで おこる きけんな ことを かんがえて ひなん しよう。
- 津波が きそうなときは、いそいで 高いところへ ひなんしよう。
- きけんな ところへは ちかづかない。

6

関連学習：ワークシート②
「ひなんマップをつくろう」

（次年度以降の展開例）

- 通学路（または学校や自宅の周辺）の地図を用意し、身近な屋外で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
- 登下校時の避難行動の訓練の際に活用する。

などが考えられる。

（指導上のポイント）

◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、身を寄せることを指導する。

◆左記以外の各自の帰り道での危険回避方法ついても考えさせる。

（指導上のポイント）

◆津波浸水が予測される地域では、津波浸水予測範囲（参照：三重県防災対策部ＨＰ http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000）で、津波の浸水地域を示し、「ここまで津波が来るかもしれない」ことを説明する。

予測は、あくまでも目安なので、「ここから先は大丈夫」と考えず、地震発生時には、川や海に近づかないように指導する。

◆「津波が来そうなら、急いで高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

◆原則として、登下校中に地震が起こった場合は、自宅か学校の安全で近い方へ向かうことを指導する。

ただし、自宅や学校が沿岸部にある場合は、海岸に向かって逃げると、津波の被害を受けることがあるので高台へ逃げるよう指導する。

◆身の安全を確認できた場合は、できるだけ早く学校へ連絡するか、学校からの安全確認の連絡を待つよう指導する。

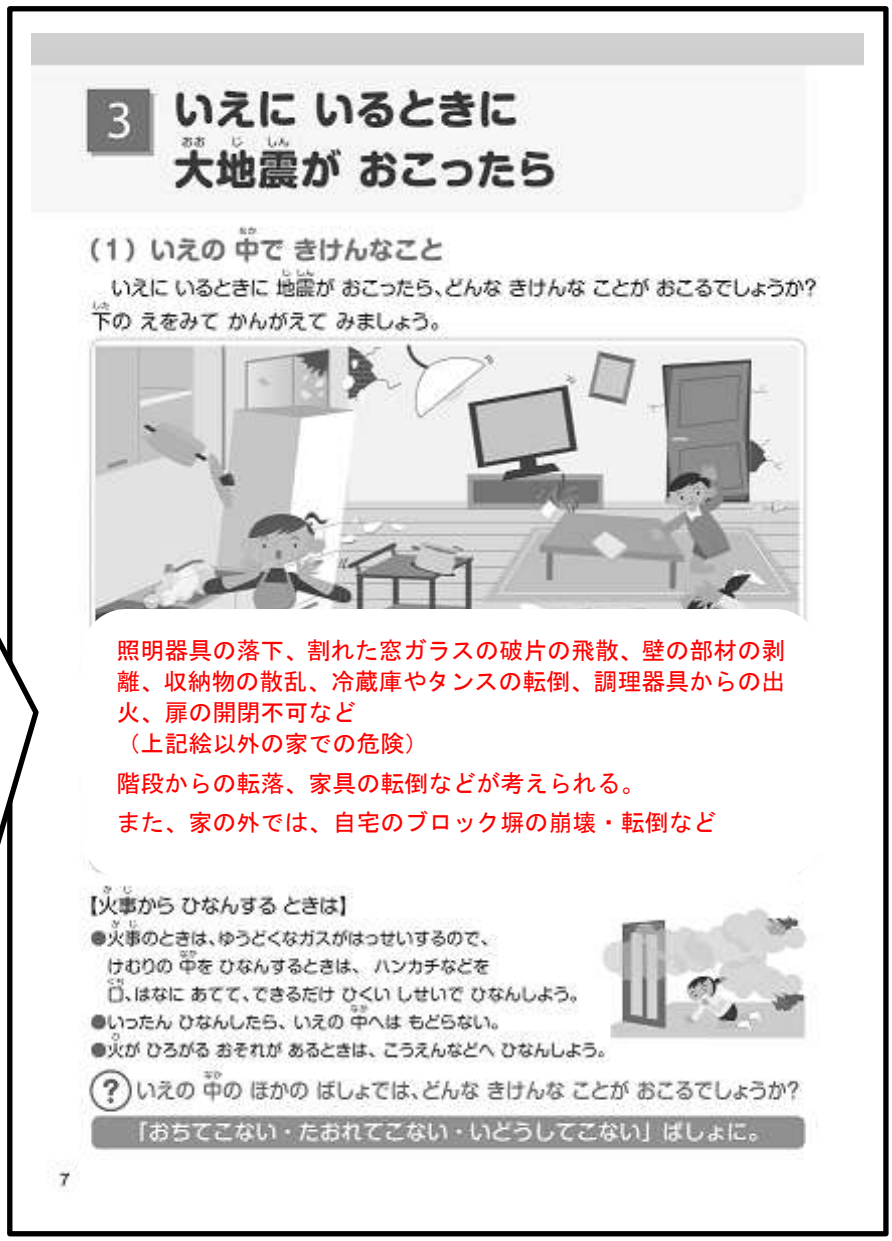
（確認）

帰り道での危険に対して、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ、避難できることを理解できたか。

「３　いえにいるときに大地震がおこったら」

学習のねらい：１．自宅で、どのような危険が起こるかを知る。
２．状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
３．避難場所や避難時に注意すべきことを知る。

（指導上のポイント）
◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
◆各自の家で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
◆２次災害として、津波、火災・爆発、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、液状化などが考えられるが、地域の実情に応じて指導する。
◆家で身を守る方法について指導する。
　例）机の下に隠れる。
　　テレビから離れる。
◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合は、あらかじめ危険箇所を調べておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。



3 いえに いるときに 大地震が おこったら

（1）いえの 中で きけんなこと

いえに いるときに 地震が おこったら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
下の えをみて かんがえて みましょう。

照明器具の落下、割れた窓ガラスの破片の飛散、壁の部材の剥離、収納物の散乱、冷蔵庫やタンスの転倒、調理器具からの出火、扉の開閉不可など
（上記絵以外の家での危険）
階段からの転落、家具の転倒などが考えられる。
また、家の外では、自宅のブロック塀の崩壊・転倒など

【火事から ひなんする ときは】
●火事のときは、ゆうどくなガスがはっせいするので、けむりの 中を ひなんするときは、ハンカチなどを口、はなに あてて、できるだけ ひくい しせいで ひなんしよう。
●いったん ひなんしたら、いえの 中へは もどらない。
●火が ひろがる おそれが あるときは、こうえんなどへ ひなんしよう。

？いえの 中の ほかの ばしょでは、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

7

《重要》
火事は津波とともに代表的な二次災害であることから、必ず注意喚起を行う。
また、ハンカチのほかにタオルや服を使ってもよいことを指導する。

（次年度以降の展開例）
・自宅での安全対策について、家族へのインタビューをもとに発表させる。
・防災啓発車による地震体験や住宅耐震化実験などの体験型防災学習の際に、学習内容を復習する。
などが考えられる。

（2）いえの 中で 大地震が おこったら

いえに いるときに 地震が おこったら、どうしたら よいでしょうか？
下の えを みて かんがえたことを かいて みましょう。

ごはんを つくって いるとき

食卓の下に隠れる。揺れがおさまってから火を消す。

べんきょうしているとき

本や手で頭を守る。
机の下に隠れる。

おふろに はいっているとき

風呂の扉を開ける。

ねているとき

ふとんに潜って頭を守る。

ゆれが おさまって、ひなんするときは…。

- 放送が あったら、しずかに きこう。
- 津波が きそうなら、いそいで たかい ところへ ひなんしよう。
- ひなんするときは、われた ガラスに 気を つけよう。
- あんぜんな ところへ ひなんしたら、もどらない。

［なまずはかせからの しつもん］

ゆれが おさまったら、あなたの いえでは
どこに にげることに なっていますか。

〇〇小学校

関連学習：ワークシート①
「じぶんの みの まもりかたを しろう」

（指導上のポイント）
◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、身を寄せることを指導する。

◆左記以外の各自の家の中での危険回避方法についても考えさせる。

（指導上のポイント）
◆「津波が来そうなら、高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

◆身の安全を確認できた場合は、できるだけ早く学校へ連絡するか、学校からの安全確認の連絡を待つよう指導する。

（指導上のポイント）
◆地震がおさまった後で、安全な所へ避難する場合があることを、下記の具体例を挙げて説明する。
例）津波が来る。家が壊れる。火事が広がる。余震が続く。電気・ガス・水道等のライフラインが使えない。など
◆各地域の避難場所を各市町防災担当部署などで確認しておく。地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なる場合があるので注意する。
※参照：県防災対策部 HP「避難所・防災マップ」
http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000

（確認）
普段、何気なく過ごしている家の中にもさまざまな危険があることに気づき、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ、避難できることを理解できたか。

【発展問題】
大きな災害にあうとつらい気持ちや悲しい気持ちになりますがどうしたらいいですか。
（回答例）大きな深呼吸をする。リラックスする。身近な人に話をする。など

「４　そとに出かけているときに大地震がおこったら」

学習のねらい：１．場所ごとに、さまざまな危険が考えられることを認識する。
２．状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
３．避難時に注意すべきことを知る。

（指導上のポイント）
◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
◆絵に描かれている危険の他に、２次災害として、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、液状化などが考えられるが、地域の実情に応じて指導する。
◆各自が外出時によく行く場所で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
◆外出時に身を守る方法について指導する。
　例）火災現場から離れる。
　　倒壊したビルから離れる。
◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合はあらかじめ危険箇所を調べておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

4 そとに 出かけているときに 大地震が おこったら

（1）出かけているときに きけんなこと

そとに 出かけているときに 地震が おこったら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？　下の えとしゃしんを みて かんがえて みましょう。

道路の陥没・崩壊、ビルの外壁看板の落下、商店の倒壊、火災発生、電車の脱線、橋の崩壊・破損、津波　など

[地震で おきた こと]

火事

こわれて、おちた まどガラス

津波

？ほかの ばしょでは、どんな きけんな ことが おこるでしょうか。

「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

9

（次年度以降の展開例）
・ 地域の地図を用意し、具体的な場所について、発生し得る危険と回避方法を指導する。
・ 遠方に出かけた時に、そこで地震が起こったらどうするかを考えさせる。
などが考えられる。

【発展問題】
〇地震後、けがをしている人をみつけた時、周りの人にどのような言葉で助けを求めますか。
（回答例）助けてください。けがをしている人がいます。救急車を呼んでください。など

（2）出かけているときに 大地震が おこったら

いつもは いかないような ところへ いったときに 地震が おこったら、どうしたらよいでしょうか？ 下の えを みて かんがえたことを かいて みましょう。

バスや でんしゃに のっているとき

・手すりにつかまる。

デパートや スーパーで かいものを しているとき

・割れたガラスから離れる。

テーマパークで あそんで いるとき

・遊具から離れる。

うみへ およぎに いったとき

・高い所へ逃げる。

ゆれが おさまって、ひなんするときは…。

- 放送が あったら、しずかに きこう。
- おちているものや こわれているものに 気をつけよう。
- そのときに いる ばしょで おこる きけんなことをかんがえて ひなんしよう。
- 津波が きそうなときは、いそいで 高いところへ ひなんしよう。
- あんぜんな ところへ ひなんしたら、もどらない。

10

（指導上のポイント）

◆「津波が来そうなら、急いで高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

（指導上のポイント）

◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、身を寄せることを指導する。

◆左記以外の各自がよく行く場所での危険回避方法についても考えさせる。

◆大雨が降っている等の悪天候の場合や夜間における危険回避方法についても指導する。

雨の日であれば、レインコートを着る。夜間時であれば、懐中電灯を持つ。

◆各回答の補足説明

（左上）急ブレーキや脱線が考えられるので、手すりにつかまり身を守る。車内アナウンスをよく聞く。外に飛び出さない。

（右上）割れたガラスや倒れてくる棚などから離れる。従業員の指示に従う。

（左下）建物の中にいる時や遊具に乗っている時は、落ち着いて係員の指示に従い、移動する。

（右下）急いで海岸から離れ、近くの津波避難ビルや高台に逃げ込む。

◆身の回りにさまざまな防災施設や設備があることを指導する。

例）避難場所の看板、高度表示板、防災倉庫、消防署、落石防止ネット、津波避難ビル　など

なお、防災マップづくりにつなげることも考える。

関連学習：ワークシート③

「災害用伝言ダイヤル（１７１）のつかいかたをしろう」

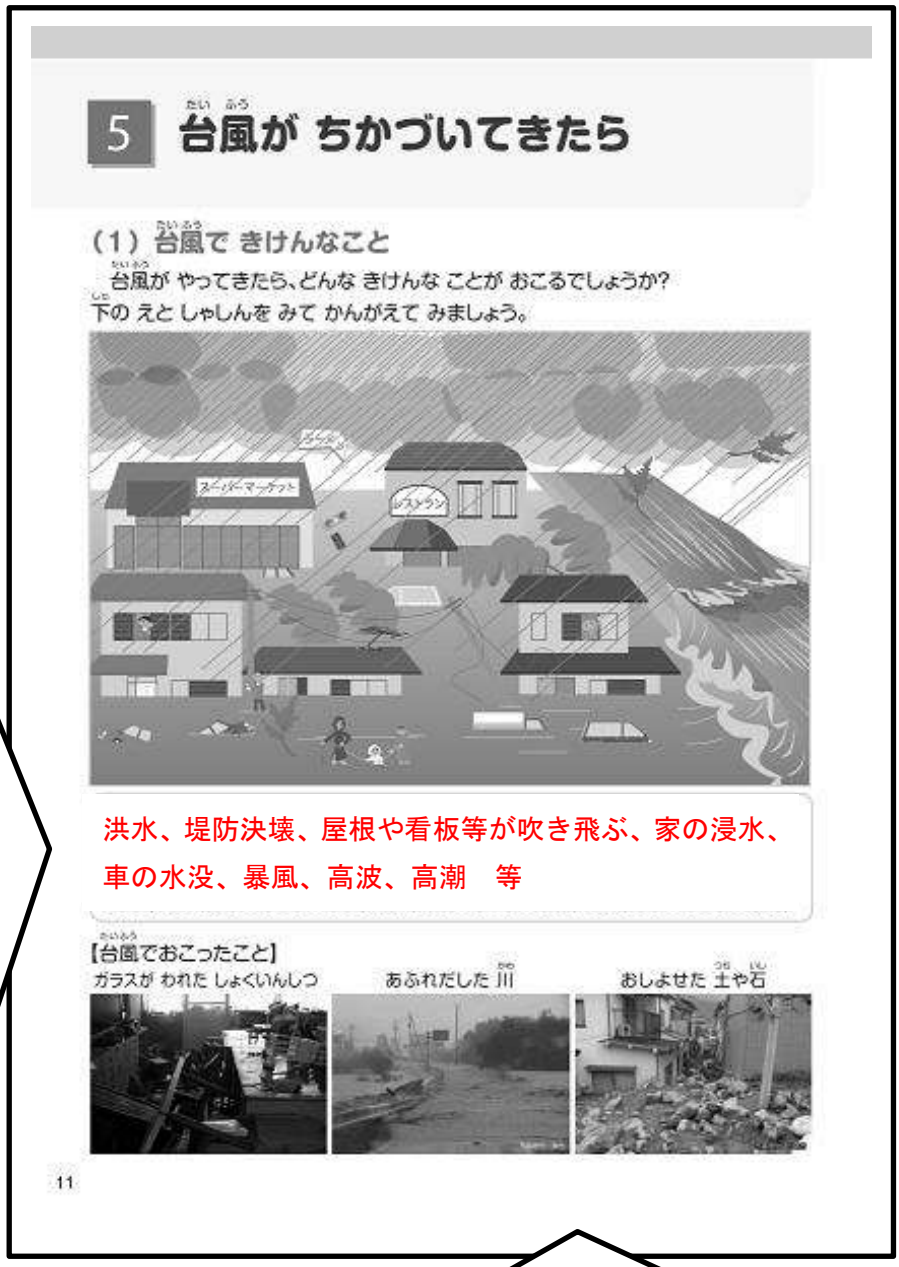
（確認）

外出先にはさまざまな危険があることを知り、知り合いがいない可能性が高い中で、どうすれば避難できるかを理解できたか。

「５　台風がちかづいてきたら」

学習のねらい：１．台風により、自分の身の回りに起こるさまざまな危険を知る。
２．状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
３．地域の台風による災害歴史を知る。

（指導上のポイント）
◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
◆大雨の時、強風の時、雨が上がった後の各場面で、どんな危険が考えられるかを発表させる。
【大雨時】
・河川氾濫、がけ崩れ　等
【強風時】
・落下物、飛来物　等
【雨上がり時】
・川、水路増水、切れた電線　等
◆絵に描かれている危険の他に、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、高潮などが考えられるが、地域の実情に応じて指導する。
◆各自が登下校時や外出時のよく行く場所で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
◆台風が近づいてきた時における身を守る方法について指導する。
例）むやみに外に出ない。
一緒にいる大人の指示に従う。
気象情報に注意する。　など


5 台風が ちかづいてきたら

（1）台風で きけんなこと
台風が やってきたら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
下の えと しゃしんを みて かんがえて みましょう。

洪水、堤防決壊、屋根や看板等が吹き飛ぶ、家の浸水、車の水没、暴風、高波、高潮　等

【台風でおこったこと】
ガラスが われた しょくいんしつ
あふれだした 川
おしよせた 土や石

11

（次年度以降の展開例）
・　実際に地域を調べて危険な箇所や避難場所を明らかにするとともに、避難方法を指導する。
・　伊勢湾台風等の被災者体験談を読み聞かせる。
などが考えられる。

（指導上のポイント）
◆大雨による土砂崩れ、洪水、高潮による浸水等の危険が迫ったと判断される場合は、高所、高台などの安全な場所へ避難することを指導する。
状況に応じて、学校においては上層階へ、家においては２階などのより安全な場所への垂直避難を説明する。

（2）台風に おそわれたら

台風におそわれたら、どうしたら よいでしょうか？
下の えを みてかんがえたことを かいて みましょう。

いえに 水が ながれこむ	どうろが 水びたしになる
・２階へ避難する。	・道の真ん中を歩く。 ・棒を持って歩く。
はげしい 風が ふく	**山が くずれる**
・落ちてくる物や飛んでくる物に気をつける。	・土砂災害現場から離れる。

ちいきで おこった 災害について きいて みよう

これまでに みえけんに やってきた 台風の ひがいについて、きいてみましょう。

きいはんとう 大水がい

例）伊勢湾台風
死者 5,098 人（三重県 1,281 人）
浸水家屋 363,611 棟（三重県 62,655 棟）
全壊家屋　40,838 棟（三重県 5,346 棟）

（指導上のポイント）
◆あらかじめ予測できる災害である台風は、事前の準備ができるので、テレビなどで情報を得るなどして安全な場所へ早めに避難することを指導する。

◆左記以外の各自がよく行く場所での危険回避方法についても考えさせる。

◆各回答の補足説明
（左上）豪雨や夜間の場合など、避難所までの移動がかえって危険な時は、近隣のより安全な場所へ移動するか、自宅の２階以上（垂直避難）に移動する。
（右上）冠水で側溝や蓋がはずれたマンホールなどに気付かないことがあるので、長い棒等を杖にして安全を確認しながら進む。
（左下）むやみに外へ出歩かない。
（右下）急いで土砂災害現場から離れ、近くの安全な場所に逃げ込む。

（指導上のポイント）
◆地域で過去に起こった災害の歴史を知っておくことが災害予防につながることを指導する。

【紀伊半島大水害エピソード」
台風第 12 号は、平成 23 年 9 月 1 日から 5 日朝にかけて、三重県南部や奈良県、和歌山県を中心に、長期間にわたって激しい雨をもたらし、各地で浸水被害や土砂災害が発生しました。
この結果、県内では、防災関係機関の懸命の救助活動にもかかわらず、2 名の方が犠牲となり、1 名の方が行方不明となっているほか、住家被害が 2,763 棟におよぶ大災害となりました。
浸水した中学校や高校では、学校の早期再開に向けて、生徒が泥掻きや清掃活動を行いました。

（確認）
台風にはさまざまな危険があることを知り、身を守るために大切なことを理解できたか。

「６　とつぜんおそう　風水害」

学習のねらい：１．竜巻、突然の大雨、雷が突然起こり、自分の身の回りに起こる危険を知る。
２．竜巻、突然の大雨、雷からの適切な身の守り方を知る。

（指導上のポイント）
◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
◆各自が学校にいる時や登下校時、外出時のよく行く場所で、竜巻が発生したら、どのような危険が発生するかを考えさせる。
◆下記に記載した竜巻から身を守る方法について指導する。
◆竜巻が発生する予兆現象を指導する。
・「低く黒い雲（積乱雲）が接近する」「雷光が見えたり雷鳴が聞こえたりする」「急に冷たい風が吹き出す」、「急な雨やひょうが降る」など
◆竜巻の特徴は、移動するスピードは自動車（平均時速 36ｋｍ）のようにとても速く、進む方向が急に変わることがある。また、竜巻が複数発生することもあり、竜巻に気付いた時に何もしないでずっと見ていることは危険であることを指導する。

6 とつぜんおそう 風水害

（1）たつまきで　きけんなこと

たつまきに おそわれたら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
下の えと しゃしんをみて かんがえて みましょう。

建物の倒壊、屋根瓦の飛散、電柱や樹木の倒壊、飛来物の衝突　　等

【たつまきで おこったこと】
ちらばった つくえ
とばされたやねがわら

たつまきから みをまもるには
いえにいるとき
●まどの ちかくから はなれる。
●じょうぶな つくえの 下にかくれ、りょう手で あたまを まもる。
そとにいるとき
●じょうぶな たてものに ひなんする。
●ずいろや くぼんだところに みをふせ、りょう手で あたまを まもる。

13

【参考サイト】
・気象庁 HP【防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」】
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/

◆○×テストを行う。
下記の質問に○×で答えさせる。
Ｑ：竜巻がきたら、すぐに頑丈な建物に避難する。
Ａ：○ 竜巻に吹き飛ばされないから。
Ｑ：竜巻がきたら、窓から離れたところに行く。
Ａ：○ 窓を突き破って物が飛んで来て危険だから。
Ｑ：竜巻が近づいてこないかどうかを窓から見続ける。
Ａ：× 窓ガラスが割れて飛び散るとあぶないから。

急な河川の増水で中州に取り残される、側溝に足をとられる、マンホールに落ちる、地下街に水が流れ込む　等

近くの木に雷が落ちる、外で遊んでいる人に雷が落ちる

14

【突然の大雨エピソード】

平成 20 年 7 月 28 日、近畿地方では、日本海南部にある前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込みやすい状態となり、大気の状態が不安定となっていた。兵庫県南部では、雷を伴った大雨となり、14 時から 15 時の解析雨量（レーダーと雨量計による解析）は、神戸市付近で約 60mm の非常に激しい雨となった。

この大雨の影響で、神戸市灘区都賀川では、急激な増水のため（14 時 40 分から 10 分ほどで約 1.3mの水位上昇）、河川内の親水公園で遊んでいた人たちが流され、そのうち 5 名が亡くなった。

当日、気象台は、13 時 20 分に大雨・洪水注意報、13 時 55 分に大雨・洪水警報を発表していた。

（指導上のポイント）

◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。

◆各自が登下校時、外出時のよく行く場所で、突然の大雨が発生したら、どのような危険が発生するかを考えさせる。

◆左記に記載した突然の大雨から身を守る方法について指導する。

◆〇×テストを行う。

下記の質問に〇×で答えさせる

Ｑ：雨が止むまで橋の下で待つ。

Ａ：× 急に川の水が増えて危険だから。

Ｑ：大雨の中を走って帰る。

Ａ：× 車にぶつかる危険がある。道路の側溝などに落ちる可能性がある。

Ｑ：近くの建物の 1 階以上の場所で雨宿りする。

Ａ：〇 雨や雷をさけて、安全に過ごすことができるから。

（指導上のポイント）

◆上記と同様

◆〇×テストを行う。

下記の質問に〇×で答えさせる

Ｑ： 大きな雷の音が近づくまでは、ようすを見る。

Ａ：×雷の音が遠くでなっていても、次の雷は今いる場所に落ちる可能性があるから。

Ｑ：雷が光ってから音がするまで 10 秒以上なら大丈夫である。

Ａ：×秒数にかかわらず、音が聞こえたらすでに安全ではないから。

（確認）

突然おそう風水害の危険を知り、身を守るための方法を理解できたか。

「7　ひなんしょで すごすことに なったら」

学習のねらい：１．避難所とはどんなところかを絵や写真で知る。
２．避難所生活のために必要な物資はどんなものがあるか知る。
３．避難所で守るルールやマナーを知る。

（指導上のポイント）
◆絵に描かれている内容
①炊き出し
②情報の掲示板
③避難者受付
④避難者の診療
⑤配給品の受け渡し
⑥家から持ち出した非常用持ち出し品のチェック
⑦高齢者の移動の手助け
⑧けがの治療
⑨赤ちゃんに授乳
　絵に描かれている以外には、仮設トイレ・風呂、救援物資の仕分けなどがある。
◆地域の避難所がどこか、児童が通う学校が避難所に指定されているかを指導する。
◆学校の体育館が避難所に指定されている場合、避難してきた人たちで学校の体育館が混雑することや、授業で体育館が使用できなくなることに気づかせる。
◆避難所での生活は、日常の集団生活と同様にルールやマナーを守ることが大切であることを指導する。
　例）大人の指示に従う。
　　大声で騒がない。

7 ひなんしょで すごすことに なったら

（1）ひなんしょって どんなところ

ひなんしょは どんなところでしょうか? 下の えと しゃしんを みて かんがえて みましょう。

炊き出しで避難者の食事の用意をする。
けがをしたら大人の人に治療をお願いする。
多くの人が集団生活するので寝る場所が狭い。風邪が広がりやすい。他人に迷惑にならないようにする。等

【ひなんしょの ようす】

たくさんの ひなんしゃ　きゅう水を まつ ひと　ゴミの 山

15

（次年度以降の展開例）
・ 被災者の話や手記などにふれさせる。
・ 自治体の協力を得て、防災倉庫等の中を見学する。
などが考えられる。

★体験談（宮城県石巻市立門脇中学校生徒）
　東日本大震災で、当たり前にできていた学校生活が当たり前にできないという苦しみを味わいました。また、避難所の方たちと同じ学校での不自由な生活で、我慢しなければならないことも多くありました。何事にも「できない。やれない。」と弱音を吐かず、方法などを変えて自分たちで工夫した学校生活を送りました。「人は非常時の振る舞いにこそ、その人の人間性が現れる」と言います。この生活でまさに人の温かさを感じ、成長することができました。　　H24.8「子ども防災サミット in みえ」より

（2）ひなんしょで きを つけることは

ひなんしょで きを つけなければ ならないことや まもらなければ ならない ことは なんでしょうか? 下の えを みて かんがえたことを かいて みましょう。

「もう ねる じかん なのに」

騒がない。早く寝る。

「あの子 どこに いるの」

自分勝手に動かない。
家族に居場所を伝える。

「みんなに くばりたいのに」

整列して順番を待つ。
係員の指示に従う。

（3）ひなんしょに もっていくものは

ひなんしょに もっていくものを かんがえて かいて みましょう。

水、乾パン、ビスケット、タオル、トイレットペーパー、ヘルメットなど

16

（指導上のポイント）
◆助け合う、譲り合う、配慮し合うなどのルールやマナーを守って避難生活をすることの大切さを指導する。
◆各回答の補足説明
（左上）
大勢の人が同じ空間に集まっているので、誰かが騒いでいると、他の人たちが休めない。
（右上）
大勢の人たちが集まっており、人の出入りも頻繁にあるので、迷子になる。
（下）
配給の列への割り込みや物資の少なさのクレームは、全体の秩序を乱し、円滑な避難所運営を阻害する。
◆その他に、ペットの世話、断水によるトイレ詰り、エコノミークラス症候群などの問題が生じることを指導する。

（指導上のポイント）
◆普段から準備することの大切さ、家族で話し合っておくことの必要性について指導する。
◆非常用持ち出し品の主なもの
【水】１人あたり１日３ℓが目安
【食料】乾パン、ビスケット、クラッカーなど
（軽くて長期間保存できるもの）
【衣類】タオル、ジャンパーなど（季節により持って行くものが変わる）
【日用品】トイレットペーパー、食品用ラップ、軍手
【医薬品】傷薬、ばんそうこう、ガーゼ
【避難用品】ヘルメット、防災ずきん、懐中電灯、携帯ラジオ
◆量や重さのため、持ち出しに限界があることに気づかせる。

（確認）
避難所がどのような場所であるか、また、気をつけるべき点が多数あることを理解できたか。

【発展問題】
〇避難生活に備えて、普段からどのような準備が必要でしょうか。
（回答例）非常用持ち出し品を用意する。家族で避難場所や避難ルートについて話し合いをする。など

「しりょうへん」

学習のねらい：１.津波の特徴を知る。
２.液状化や土砂災害の自然災害について知る。

津波エピソード

～森本福太郎翁の叫び～
《300 人の命を救った漁師》

1944 年に発生した東南海地震の規模は、マグニチュード 7.9 で、1923 年に発生した関東大地震とほぼ同じでした。震源は、和歌山県新宮市付近で、断層の破壊は北東に進み、浜名湖付近まで達したといわれています。この地震により大津波が発生し、高いところでは、２階建ての住宅をはるかに越えてしまうほどでした。

津波による被害は甚大で、特に志摩半島から和歌山にかけての海岸部で大きくなりました。

東南海地震津波到達地点碑には森本福太郎さんの名が刻まれています。森本さんは地震発生直後に、荒坂国民学校（今の熊野市立荒坂小学校）に向かいました。学校では、津波が来ることに気づいていない子どもたちが、下校のために集まっているところでした。森本さんは、玄関まで駆け付けると、「津波が来る。子どもを逃がせ！」と、辺りにとどろく大声で叫びました。このおかげで、子どもたちは高台へ避難し、多くの命が救われました。

当時、荒坂国民学校は高等科２年まであり、８学級350人の大きな学校でした。福太郎じいさんが駆け付けなかったら、すでに下校ずみの１、２年生を除いた300人の生命は、失われるところでした。

「三重県こころのノート（中学生版）」より作成

しりょうへん

（1）津波に ついて しっておこう

津波から たすかる ためには、津波を よく しることが たいせつです。

津波の ちゅういする ところ

① 地震の おきる ところに よっては、津波が すぐに おそって くるかも しれない。
② 津波はジェット機なみの速さでおしよせてくる。
（海上の場合、例えば、深さが5,000mのところではジェット機と同じくらいのスピードです。また、深さ500mのところでは新幹線と、深さ50mのところでは自動車と同じくらいです。）
③ 津波は くりかえし おそってくる。
④ 津波は ばしょによって、たかさが ちがう。
⑤ たとえ 30センチていどの 津波でも、立って いられない ほどの ちからが ある。
⑥ 津波は うみから 川を さかのぼる。
⑦ 津波が くるときは、さいしょに しおが ひくとは かぎらない。

このひょうしきにちゅうい!

津波避難ばしょ　津波避難ビル　津波ちゅうい　津波がくるところ

（指導上のポイント）

◆津波避難の３原則を指導する。

①「想定にとらわれるな」

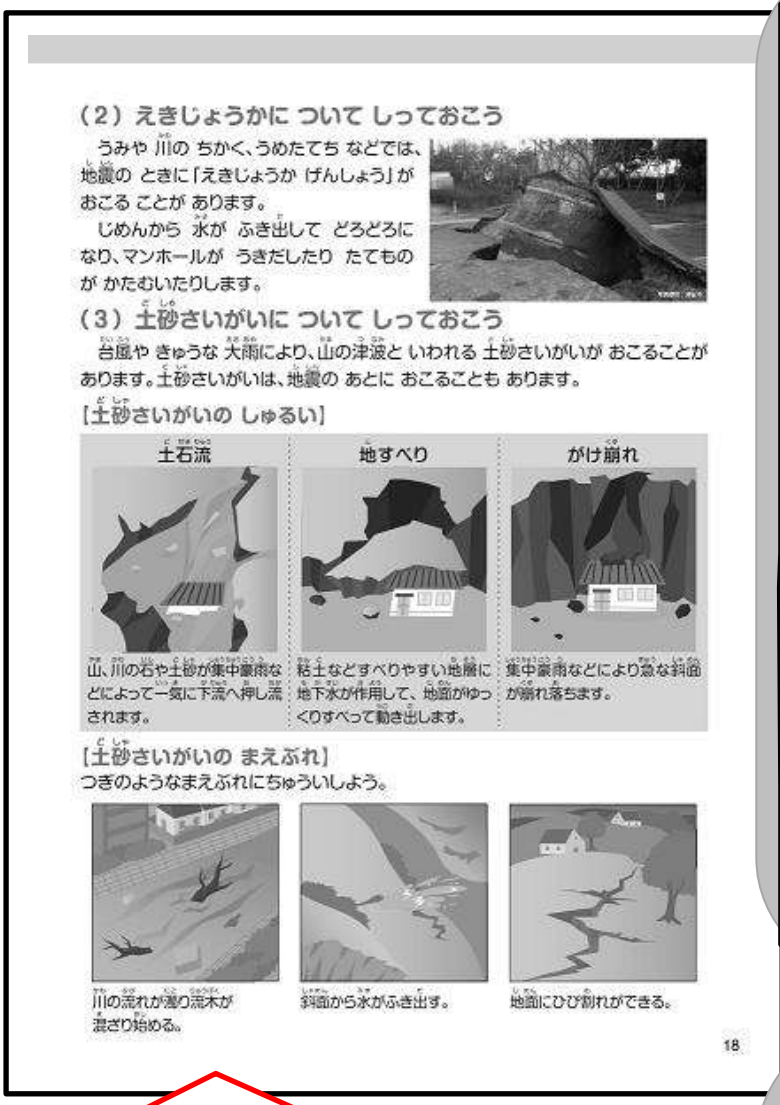
・ 東日本大震災では、ハザードマップの浸水想定区域の外側で、多くの方が津波で亡くなりました。想定は目安の１つです。とらわれ過ぎることなく、地震が来たらすぐに避難しましょう！

②「最善を尽くせ」

・ 地震の規模によっては、避難所として指定されている場所まで津波が押し寄せることがあります。時間のある限り、「少しでも遠く」「少しでも高く」避難するなど、最善を尽くしましょう！

③「率先避難者たれ」

・ 人には、周りが避難しないと、大丈夫だと思い込み、それに合わせてしまう心の特性があります。あなたが率先して避難を始めることで、皆が続いて避難し多くの命が救われます。参考「人が死なない防災」：群馬大学片田教授著



（2）えきじょうかに ついて しっておこう

うみや 川の ちかく、うめたてち などでは、地震の ときに「えきじょうか げんしょう」が おこる ことが あります。

じめんから 水が ふき出して どろどろに なり、マンホールが うきだしたり たてもの が かたむいたりします。

（3）土砂さいがいに ついて しっておこう

台風や きゅうな 大雨により、山の津波と いわれる 土砂さいがいが おこることが あります。土砂さいがいは、地震の あとに おこることも あります。

[土砂さいがいの しゅるい]

土石流	地すべり	がけ崩れ
山、川の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されます。	粘土などすべりやすい地層に地下水が作用して、地面がゆっくりすべって動き出します。	集中豪雨などにより急な斜面が崩れ落ちます。

[土砂さいがいの まえぶれ]

つぎのようなまえぶれにちゅういしよう。

川の流れが濁り流木が混ざり始める。

斜面から水がふき出す。

地面にひび割れができる。

18

（指導上のポイント）

◆土砂災害の前ぶれとして、上記の他には、「山鳴りがする」、「雨が降り続いているのに川の水位が下がる」、「がけや斜面から小石がパラパラと落ちてくる」、「沢や井戸の水がにごる」などがある。ただし、いつも、このような前ぶれがあるとは限らないので、少しでも異変に気づいたら早く安全な場所に避難するよう指導する。

◆土石流はスピードが速いので、流れを背にして逃げてもすぐには追いつかれてしまうので、土砂が流れる方向に対して直角に逃げるよう指導する。また、できるだけ高いところに逃げることも指導する。

液状化エピソード

平成23年3月11日の東日本大震災では、特に被害が甚大であったのが、千葉県浦安市であり、埋め立て地を中心に、市の面積の約４分の３にあたる１，４５５ヘクタールで液状化現象が発生し、多数の住家被害や道路被害が発生した（全壊１２棟、大規模半壊１，３８７棟）。また、湾岸部のみならず、内陸部でも液状化現象は発生した。一例として、埼玉県久喜市南栗橋地区では、被災宅地危険度判定調査（調査対象１３１宅地）で２７宅地が「要注意判定」を受けるなどの住家被害が発生した。

なお、液状化現象により直接人的被害が生じることはないと考えられるが、二次的な被害として、ライフライン（道路、電気、都市ガス、上下水道等）などの被害が考えられる。

「東日本大震災震災対策検証委員会報告書」（岐阜県）より（一部抜粋要約）」

土砂災害エピソード

平成26年8月20日午前3時20分から40分にかけて、局地的豪雨により広島市の安佐南区と安佐北区で多数の土石流や崖崩れが発生した。７４人が死亡、６９人が負傷した。広島市によると１７９軒が全壊、２１７軒が半壊した。

土砂流出発生前から複数の通報が寄せられたが、安佐南区山本地区では午前3時20分に崖崩れの通報があったにもかかわらず、広島市からの避難勧告の発令は午前4時30分になっており勧告の遅れが指摘された。

その後、「避難対策等検証部会」（座長・土田孝広島大学教授）では、避難勧告が遅れたことについて「やむを得ない」などとする最終報告案をまとめ、豪雨の中での夜間の避難は被害拡大の可能性があり、適切な勧告時期を示すことは難しいと結論づけた。

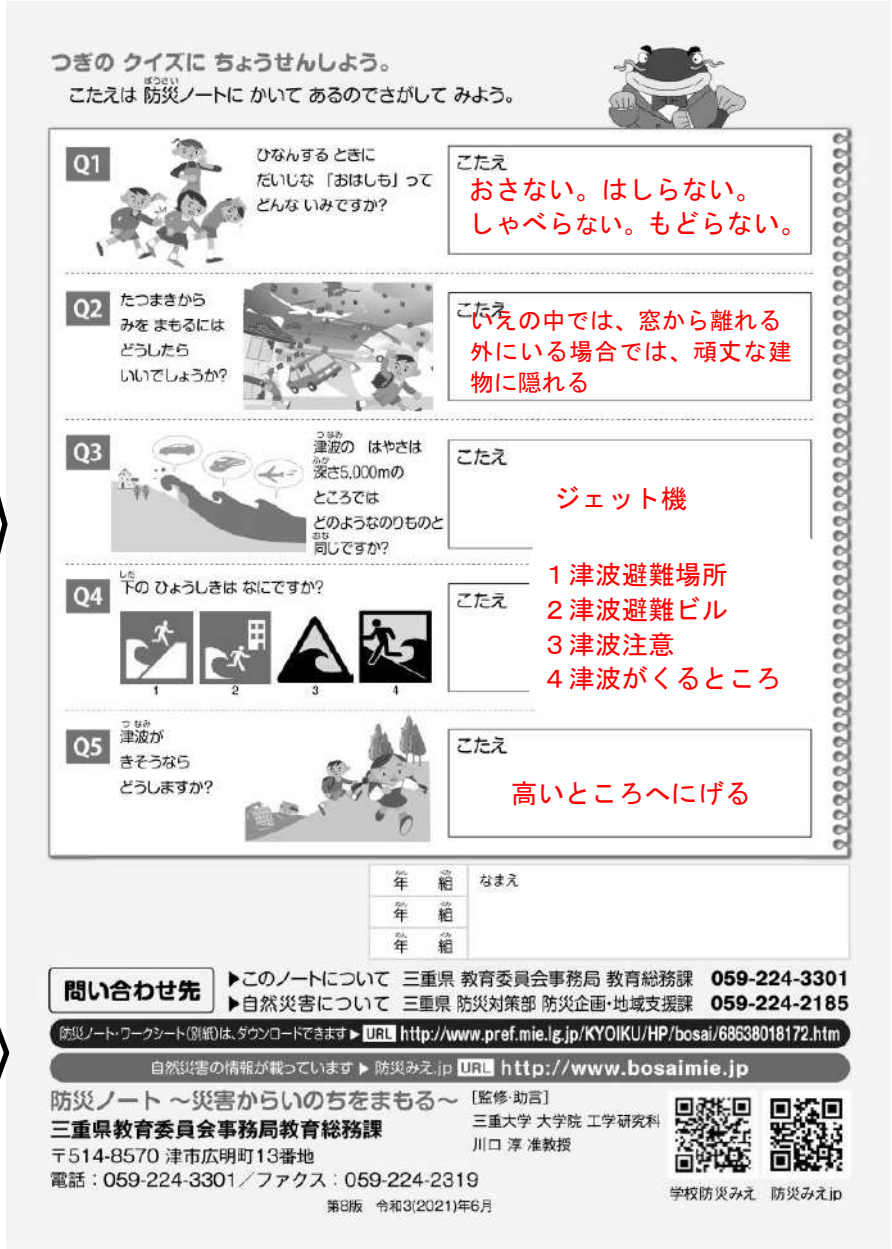
「8.20 豪雨災害における避難対策等検証部（広島市）害における避難対策等検証部会 より（一部抜粋要約）」

「　裏表紙　」

学習のねらい：これまでの学習内容の復習をさせる。

（指導上のポイント）
◆これまでの学習の復習に活用する。
【回答掲載箇所】
Ｑ１. 本冊Ｐ4 下部のなまず博士のことばを参照。
Ｑ２. 本冊 P13【とつぜんおそう風水害】の最下部を参照。
家の中にいる場合と、外にいる場合を分けて指導する。
Ｑ３. 本冊 P13 の②を参照。
津波の速さは海底の深さと比例する。なお、上陸してからも、オリンピック短距離選手並みの速さで押し寄せてくる。
Ｑ４. 本冊 P17 の中段「このひょうしきにちゅうい」を参照。
Ｑ５. 本冊 P17 の下段なまず博士のことばを参照。

（指導上のポイント）
◆ポータルサイト「学校防災みえ」及び「防災みえ. jp」のＱＲコードについて紹介する。
◆「学校防災みえ」トップ画面は、東日本大震災の映像や写真、証言等をみることができる各種防災関係機関が作成したサイトを揃えているので、効果的な学習ができることを指導する。
◆家庭用防災学習サイトでは、防災クイズや防災スゴロクを使って楽しく話し合いながら防災学習ができチャレンジしてみるよう指導する。



つぎの クイズに ちょうせんしよう。
こたえは 防災ノートに かいて あるのでさがして みよう。

Q1 ひなんする ときに だいじな「おはしも」って どんな いみですか?
こたえ おさない。はしらない。しゃべらない。もどらない。

Q2 たつまきから みを まもるには どうしたら いいでしょうか?
こたえ いえの中では、窓から離れる 外にいる場合では、頑丈な建物に隠れる

Q3 津波の はやさは 深さ5,000mの ところでは どのようなのりものと 同じですか?
こたえ ジェット機

Q4 下の ひょうしきは なにですか?
こたえ
1 津波避難場所
2 津波避難ビル
3 津波注意
4 津波がくるところ

Q5 津波が きそうなら どうしますか?
こたえ 高いところへにげる

年 組 なまえ
年 組
年 組

問い合わせ先
▶このノートについて 三重県 教育委員会事務局 教育総務課 059-224-3301
▶自然災害について 三重県 防災対策部 防災企画・地域支援課 059-224-2185
防災ノート・ワークシート(別紙)は、ダウンロードできます▶ URL http://www.pref.mie.lg.jp/KYOIKU/HP/bosai/68638018172.htm
自然災害の情報が載っています▶ 防災みえ.jp URL http://www.bosaimie.jp
防災ノート ～災害からいのちをまもる～
三重県教育委員会事務局教育総務課
〒514-8570 津市広明町13番地
電話：059-224-3301／ファクス：059-224-2319
[監修・助言] 三重大学 大学院 工学研究科 川口 淳 准教授
第8版 令和3(2021)年6月
学校防災みえ 防災みえ.jp

「ワークシート①　じぶんのみのまもりかたをしろう」

学習のねらい：１.安全行動の基本である「だんごむしのポーズ」を理解する。
２.「安全な場所に逃げる」原則を理解する。

（活用例）
- 学校の避難訓練などの際に活用して、だんごむしのポーズをとらせる。
- 家に持ち帰り、家族と一緒にだんごむしのポーズを練習する（家族への周知も図る）。

（指導上のポイント）
◆だんごむしのポーズについて、理解させる。
（だんごむしのポーズは、地震の揺れや落下物から身を守るポーズです。）

（指導上のポイント）
◆書庫等の重量物の近くから逃げることを徹底する。

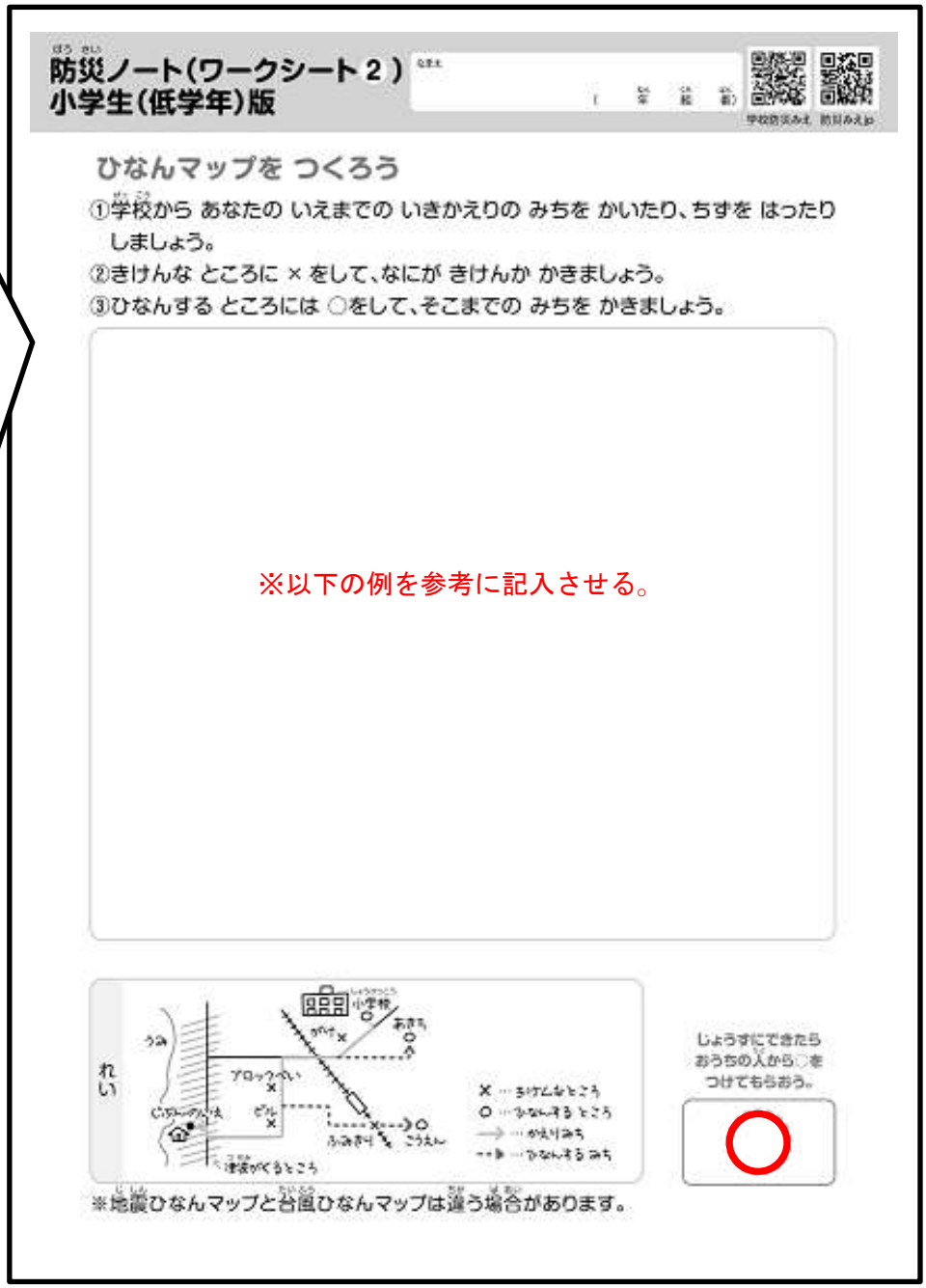
（指導上のポイント）
◆緊急地震速報器を整備している学校では、地震発生時に学校に流れる緊急地震速報の音（設置されていない場合、ＮＨＫなどが地震発生時に放送する緊急地震速報の音）を児童に聞かせ、さまざまな場所で、この音を聞いたら、どのような行動を取ればよいかを考えさせる。

「ワークシート②　ひなんマップをつくろう」

学習のねらい：自宅や通学路からの避難場所と避難ルート、避難中の危険地点を実際に地図を描いて覚える。

（活用例）
- 登下校の避難訓練、防災タウンウォッチングなどの際に合わせて活用する。
- 家に持ち帰り、家族と一緒に記入する（家族への周知も図る）。

（指導上のポイント）
◆本冊「２　学校からのかえり道で大地震がおこったら」で、危険な箇所や危険回避方法について復習させたうえで、児童に記入させる。
◆各地域の避難場所を各市町防災担当部署などで確認しておく。地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なる場合があるので注意する。
※参照：県防災対策部 HP
「避難所・防災マップ」
http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000



防災ノート(ワークシート２)
小学生(低学年)版

ひなんマップを つくろう

①学校から あなたの いえまでの いきかえりの みちを かいたり、ちずを はったりしましょう。
②きけんな ところに × をして、なにが きけんか かきましょう。
③ひなんする ところには ○をして、そこまでの みちを かきましょう。

※以下の例を参考に記入させる。

じょうずにできたらおうちの人から○をつけてもらおう。

※地震ひなんマップと台風ひなんマップは違う場合があります。

「ワークシート③　災害用伝言ダイヤル（１７１）のつかいかたをしろう」

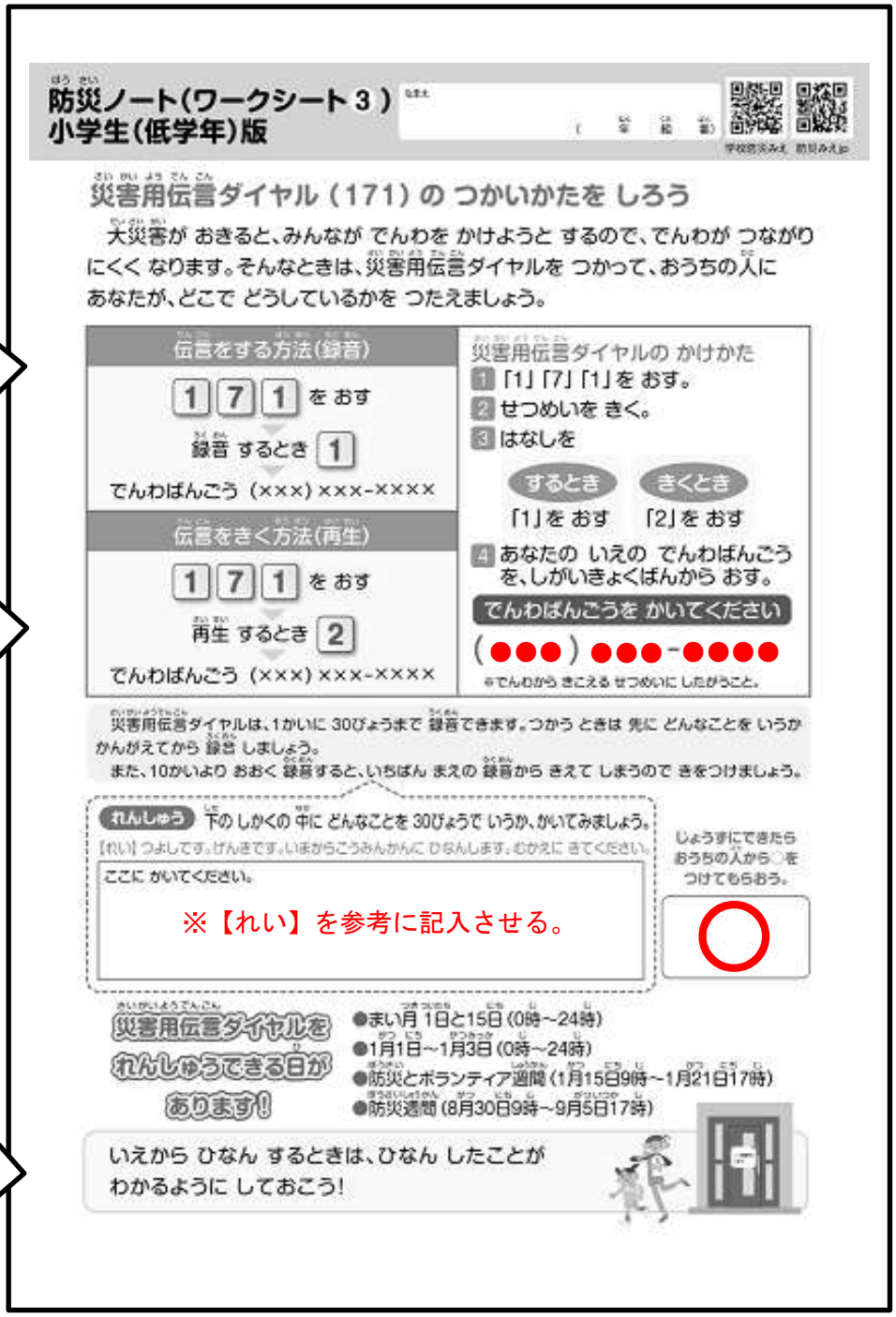
学習のねらい：１７１などを使い、家族への連絡ができるようになる。

（活用例）
- ３０秒以内に読み上げられるか練習する。
- 家に持ち帰り、家族とともに使い方を練習する（家族への周知も図る）。

（指導上のポイント）
◆自分の家の電話番号をしっかり覚えさせたうえで、災害用伝言ダイヤルの使い方を指導する。

（指導上のポイント）
◆災害用伝言ダイヤルは、伝えたい相手も使用できなければ伝えることができないので、家族全員が覚える必要があることを指導す

（指導上のポイント）
◆１７１の説明だけでなく、貼り紙などでも家族と連絡を取ることができることを指導する。



防災ノート(ワークシート３)
小学生(低学年)版

災害用伝言ダイヤル（171）の つかいかたを しろう

大災害が おきると、みんなが でんわを かけようと するので、でんわが つながりにくく なります。そんなときは、災害用伝言ダイヤルを つかって、おうちの人に あなたが、どこで どうしているかを つたえましょう。

伝言をする方法(録音)
1 7 1 を おす
録音 するとき 1
でんわばんごう (×××) ×××-××××

伝言をきく方法(再生)
1 7 1 を おす
再生 するとき 2
でんわばんごう (×××) ×××-××××

災害用伝言ダイヤルの かけかた
1 「1」「7」「1」を おす。
2 せつめいを きく。
3 はなしを
するとき 「1」を おす
きくとき 「2」を おす
4 あなたの いえの でんわばんごうを、しがいきょくばんから おす。
でんわばんごうを かいてください
(●●●) ●●●-●●●●
※でんわから きこえる せつめいに したがうこと。

災害用伝言ダイヤルは、1かいに 30びょうまで 録音できます。つかう ときは 先に どんなことを いうか かんがえてから 録音 しましょう。
また、10かいより おおく 録音すると、いちばん まえの 録音から きえて しまうので きをつけましょう。

れんしゅう 下の しかくの 中に どんなことを 30びょうで いうか、かいてみましょう。
【れい】つよしです。げんきです。いまからこうみんかんに ひなんします。むかえに きてください。
ここに かいてください。
※【れい】を参考に記入させる。

じょうずにできたら おうちの人から ○を つけてもらおう。

災害用伝言ダイヤルを れんしゅうできる日が あります!
●まい月 1日と15日 (0時～24時)
●1月1日～1月3日 (0時～24時)
●防災とボランティア週間 (1月15日9時～1月21日17時)
●防災週間 (8月30日9時～9月5日17時)

いえから ひなん するときは、ひなん したことが わかるように しておこう!

「防災ノート到達目標表」

到達目標＼各版		小学生（低学年）版	小学生（高学年）版	中学生版	高校生版
生き残る	自分が	**○学校、通学路、自宅及び外出時に危険を認識して回避できるようになること。**			
		①自分が普段生活している場所での自然災害発生時の危険を知り、教員や保護者の指示に従い行動することができる。 ②火災から逃げるための注意事項を知る。 ③地域で発生した風水害の歴史を聞く。 ④地震発生時からの安全行動の基本である「だんごむしのポーズ」を知り行動できる。	①自分が普段生活している様々な場所での自然災害発生時の危険を理解し、危険を回避することができる。 ②火災から逃げるための注意事項を理解し、行動することができる。 ③地域で発生した風水害の歴史を調べることができる。	①これまでに起きた自然災害発生による被害を理解し、自分の行動範囲にあてはめ、危険と正しい危険回避を自ら判断し行動することができる。 ②台風による災害を最小化するため事前の防災行動計画を作成することができる。 ③火災からの避難や消火にかかる注意事項を理解し、行動することができる。 ④地域で発生する可能性のある災害について把握し、備えることができる。	①これまでに起きた自然災害発生による被害を理解し、自分の行動範囲だけでなく、遠出も含めた外出時の危険と正しい危険回避を自ら判断し適切に行動することができる。 ②台風による災害を最小化するため事前の防災行動計画を適切に作成することができる。 ③火災からの避難や消火にかかる注意事項を理解し、適切に行動することができる。
	頁	防災ノートP3～14、ワークシート①	防災ノートP3～14	防災ノートP3、5、7、9、10、11、12	防災ノートP3、5、6、7、9、11、
		○一人でも避難場所などに安全に避難できるようになること。			
		①「おはしも」などの避難時の注意事項を知り、教師や保護者の指示に従い行動できる。 ②自宅からの避難場所を知る。 ③自宅から避難場所までの避難マップに、避難ルートや危険箇所等を記入することができる。	①「おはしも」などの避難時の注意事項を理解し行動できる。 ②自宅から避難場所に避難することができる。 ③自宅から避難場所までの避難マップを作成し、避難ルートや危険箇所などを記入することができる。	①学校内での避難経路上の危険箇所や避難場所を把握し行動することができる。 ②通学路上での最寄りの安全な場所やその後の避難行動について自ら判断し行動することができる。 ③台風に備えて、早めに避難行動を取ることができる。 ④自宅から避難場所までの避難マップを作成し、自然災害発生時に危険を回避することができる。	①学校内での避難経路上の危険箇所や避難場所を把握し適切に避難することができる。 ②避難訓練での注意すべきことを把握するとともに、改善点を提案することができる。 ③通学路上や初めて訪れる場所において、最寄りの安全な場所やその後の避難行動について自ら判断し適切に行動することができる。 ④台風に備えて、早めに避難行動をとり、帰宅困難時には適切に対応することができる。 ⑤自宅から避難場所までの避難マップを作成し、地震発生時に適切に危険を回避することができる。
	頁	防災ノートP4・6・8・10・12、ワークシート②	防災ノートP4・8・12、ワークシート①	防災ノートP4・8・10、ワークシート③	防災ノートP4・8・10、ワークシート③
		○様々な災害の特徴を理解し、身を守ることができるようになること。			
		①津波、液状化、土砂災害の基本的な知識を身につける。 ②津波関連の標識を知る。 ③津波からの避難方法を理解する。	①津波、液状化、土砂災害の特徴を理解する。 ②地域で起こった津波の歴史と今後の発生確率を知り、災害に備えることができる。 ③津波からの避難方法を理解し行動することができる。	①地域で起こる可能性が高い南海トラフ地震の強震動予測を理解し、災害に備えることができる。 ②南海トラフ地震の津波浸水予測範囲や津波浸水到達予測時間を理解し避難することができる。 ③増加傾向にある集中豪雨を理解し災害に備えることができる。 ④防災気象情報を理解し行動することができる。	①地域で起こる可能性が高い南海トラフ地震の強震動予測を理解し、災害に適切に備えることができる。 ②南海トラフ地震の津波浸水予測範囲や津波浸水到達予測時間を理解し、適切に避難することができる。 ③南海トラフ地震の被害想定結果を理解し、適切に備えることができる。 ④防災気象情報を理解し、適切に行動することができる。 ⑤特別警報の特徴を理解し適切に行動することができる。
	頁	防災ノート　P17・18	防災ノート　P17・18	防災ノート　P17・18	防災ノート　P17・18
	家族等が	**○家族との連絡ができるようになること。**			
		①災害用伝言ダイヤルの録音や再生の練習を行い、災害用伝言ダイヤルの使い方を知る。 ②張り紙や隣人への伝言などの方法を知る。	①災害用伝言ダイヤルの録音や再生をするがことができる。 ②張り紙や隣人への伝言などの方法を理解する。	①災害用伝言ダイヤルを活用し、家族の安否を確認することができる。 ②張り紙や隣人への伝言などの方法を理解し行動することができる。	①災害用伝言ダイヤルを活用し、家族の安否を適切に確認することができる。 ②張り紙や隣人への伝言などの方法を理解し、適切に行動することができる。
	頁	ワークシート③	ワークシート④	ワークシート④	ワークシート④
		○家族が過ごす部屋や自宅を安全にすること。			
		－	①部屋を安全にする方法を理解し行動することができる。	①部屋や自宅を安全にする方法を理解し、自ら判断し行動することができる。	①部屋や自宅の危険箇所を把握するとともに、自ら判断し適切に行動することができる。
	頁	－	ワークシート②	防災ノートP6、ワークシート①	防災ノートP6、ワークシート①
		○手助けが必要な家族等を支援し、ともに安全に避難すること。			
		－	－	①救命措置が必要な人に心肺蘇生やAEDを使用することができる。 ②手助けが必要な家族等を助けるための取るべき行動や安全に避難させる方法を理解し行動することができる。	①救命措置が必要な人に心肺蘇生やAEDの使用を適切にすることができる。 ②手助けが必要な家族等を助けるための取るべき行動や家族を安全に避難させる方法を理解し、適切に行動することができる。
	頁	－	－	防災ノートP4・6・10	防災ノートP4・6・10

生き延びる	**○非常用持ち出し品や備蓄物資にはどんなものがあるか考えること。**			
	①被災時に持ち出すものにどんなものがあるか知る。	①自宅にある非常用持ち出し品とその量を把握することができる。 ②非常用持ち出し品の注意事項を理解する。 ③重さや大きさ等を考えて自分で持ち出すことができるものを理解する。	①自宅にある非常用持ち出し品とその量、保管場所を適切に把握することができる。 ②自分の家族が1週間生活するのに必要な備蓄品の種類と量、保管している場所を把握することができる。	①1週間生活するために必要な備蓄品の種類や量を適切に把握し、備えることができる。 ②あらかじめ家族間で避難時に持ち出す非常用持ち出し品を決めておくことができる。
頁	防災ノート P16	防災ノートP8、ワークシート③	防災ノートP6、ワークシート②	ワークシート②
	○避難所で年齢相応の生活や活動をすることができるようになること。			
	①避難所とはどんなところかを知る。 ②避難所で守るべきルールやマナーを知る。	①避難所とはどんなところかを理解する。 ②避難所で守るべきルールやマナーを理解する。 ③大人たちの指示のもと、小学生でもできる避難所での活動があることを理解する。	①避難所の目的や役割について理解する。 ②避難所で守るべきルールやマナーを理解し行動することができる。 ③避難所で自分が取るべき活動を自ら判断し行動することができる。 ④自分の学校が避難所になった場合を想定し、必要な対応をとることができる。	①避難所で自分がするべき行動や果たすべき役割を理解し、自らの判断で適切に行動することができる。 ②自分の学校が避難所になった場合を想定し、必要な行動を適切にとることができる。 ③避難所での守るべきマナーやルールが世界から賞賛されていることを知る。
頁	防災ノート P11・12	防災ノート P13・14	防災ノート P13・14	防災ノートP13・14
	○家族の避難先を把握すること。			
	－	①被災時の家族の避難先や連絡を取る方法について家族と話し合うことができる。	①家族の主な居場所からの避難先や連絡を取る方法について家族と話し合って決めておくことができる。	①家族の時間帯による避難先や連絡を取る方法について家族と話し合って決めておくことができる。
頁	－	ワークシート④	ワークシート④	ワークシート④
元に戻して次につなげる	**○復旧活動やボランティア活動に参加すること。**			
	－	－	①災害ボランティア活動に参加する意義を理解する。 ②参加可能な災害ボランティア活動を知り、被災地を支援する様々な方法について理解し行動できる。 ③過去に三重県で起こった紀伊半島大水害での中学生の復旧活動を知る。	①被災地復旧に合わせて求められる災害ボランティア活動について理解し行動することができる。 ②参加可能な災害ボランティア活動の心掛ける点を理解し適切に行動することができる。 ③風水害からの様々な復旧活動を理解し、行動することができる。 ④過去に三重県で起こった紀伊半島大水害での高校生の復旧活動を知る。
頁	－		防災ノート P12、15	防災ノートP12、15
	○災害を記録し、校外に発表すること。			
	－	－	①震災遺構に込められた被災地の思いについて理解することができる。 ②被災地の思いから、今後自分が果たすべき役割を伝えることができる。	①被災地の立場にたって、災害を伝える方法や伝える内容を考え行動することができる。
頁	－	－	防災ノートP16	防災ノートP15
	○地域での防災活動に参加すること。			
	－	－	－	①地域での防災活動の意義を理解し行動することができる。 ②自分たちの地域に必要な防災活動を考えることができる。 ③自分たちが住む地域を災害から強くすることを考えることができる。
頁	－	－	－	防災ノート P16

「参考資料」

1　三重県地震被害想定調査結果

南海トラフ地震については、以下の二つの地震を想定して調査を行った。

（ア）過去最大クラスの南海トラフ地震

過去概ね100年から150年間隔でこの地域を襲い、揺れと津波により本県に甚大な被害をもたらしてきた、歴史的にこの地域で起こり得ることが実証されている南海トラフ地震です。

（イ）理論上最大クラスの南海トラフ地震

あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震です。

地震被害想定調査結果の概要

①各市町最大震度について

想定震源モデル（プレート境界型地震：2 モデル、活断層を震源とする地震：3 モデル）により、各市町において想定される最大震度は、以下のとおりです。

市町	最大震度					
	南海トラフ（過去最大）	南海トラフ（理論上最大）	養老―桑名―四日市断層	布引山地東縁断層帯（東部）	頓宮断層	東海・東南海・南海地震（H17※）
桑名市	6弱	7	7	6強	5強	6弱
いなべ市	6弱	6強	7	6弱	6強	6弱
木曽岬町	6弱	7	7	6強	5強	6弱
東員町	6弱	6強	7	6弱	5強	6弱
四日市市	6強	7	7	6強	6弱	6弱
菰野町	6弱	6強	6強	6弱	5強	6弱
朝日町	6弱	6強	7	6強	5強	6弱
川越町	6弱	7	7	6強	6弱	6弱
鈴鹿市	6強	7	7	7	5強	6強
亀山市	6弱	6強	6強	6強	6弱	6強
津市	6強	7	6強	7	6弱	6強
松阪市	6強	7	6弱	7	5強	6強
多気町	6強	7	5強	6強	5強	6強
明和町	6強	7	6弱	6強	5強	6強
大台町	6強	7	5強	6強	5弱	6強
伊賀市	6弱	6強	6弱	6弱	6強	6弱
名張市	6弱	6強	5強	6弱	6弱	5強

伊勢市	6強	7	6弱	6弱	5強	6強
鳥羽市	6強	7	6弱	6弱	5強	7
志摩市	7	7	5強	6弱	5弱	7
玉城町	6強	7	5強	6弱	5強	6強
南伊勢町	7	7	5強	6弱	5弱	7
大紀町	6強	7	5強	6強	5弱	6強
度会町	6強	7	5強	6強	5強	6強
尾鷲市	6強	7	4	5弱	4	6強
紀北町	6強	7	5弱	6弱	5弱	6強
熊野市	7	7	4	5弱	4	6強
御浜町	7	7	4	5弱	4	6強
紀宝町	6強	7	4	4	4	6強

※前回調査（平成17年度）で行った東海・東南海・南海地震が同時発生した場合を掲載しています。

②南海トラフ地震の被害想定調査結果について

南海トラフ地震発生を想定した場合の被害想定についてはその概要については、以下のとおりです。

【南海トラフ地震による被害想定結果】

項目	南海トラフ（過去最大）	南海トラフ（理論上最大）	※東海・東南海・南海（H17．3）
最大震度	7	7	7
死者（揺れ）	約1,400	約9,700	約1,300
死者（津波）	約32,000	約42,000	約1,000～3,100
死者（火災）	―	約900	約40
死者（急傾斜等）	約60	約100	約340
死者（合計）	**約34,000**	**約53,000**	**約2,700～4,800**
負傷者	**約17,800**	**約62,000**	**約11,700**
全壊建物（揺れ）	約23,000	約170,000	約39,000
全壊建物（津波）	約38,000	約37,000	約10,000
全壊建物（火災）	約2,100	約34,000	約2,900
全壊建物（液状化）	約5,900	約6,200	約10,800
全壊建物（急傾斜等）	約700	約1,100	約3,400
全壊建物（合計）	**約70,000**	**約248,000**	**約66,100**

※　単位は、人的被害は「人」、建物被害は「棟」、「―」はわずか。

※　火災による全壊（焼失）棟数は、冬の夕方に発生した場合を想定。

※詳細は、下記をご覧ください。

○地震被害想定結果の概要

https://www.pref.mie.lg.jp/common/02/ci500003606.htm

２　エピソード等

①　東日本大震災（２０１１年３月１１日　午後２時４６分）

〇釜石の出来事

「生かされた防災教育の取り組み」釜石東中学校校長　平野　憲前校長

地震発生と同時に停電となり校内放送は使えなかった。３階にいる生徒は非常階段を使って校庭へ出た。その場の自主的な判断により校舎外に全員避難することができた。「点呼はとらなくてよい。とにかくございしょの里（第１次避難場所）に避難しなさい」。副校長の指示で、校庭に整列しようとしていた生徒たちは、それぞれに学校から 700m 離れた「ございしょの里」を目指した。職員室にいた一番若い先生には、「率先避難者になって走り出して」と頼んだ。

隣にある鵜住居小学校では、津波の到達が早いかもしれないと判断し、児童を校舎 3 階に避難させていた。中学生が「津波だ」「逃げろ」と叫びながら走るのを見て、校舎を出て、同じように「ございしょの里」を目指して避難を始めた。

「ございしょの里」には、避難した時のための「学級礼」を置いていた。小中合同避難訓練の時のように、先に着いた生徒や教員が学級礼をかざし、ばらばらに避難してきた児童生徒たちは素早く整列し、点呼をとった。全員の無事を確認することができた。安心したのも束の間、教員の一人が、近所のお年寄りから、建物脇の崖が崩れているのを知らされた。「生まれてから、ここの山が崩れることなど見たこともない。これからとんでもないことが起こる。」副校長の判断で、さらに高台にある介護福祉施設へ避難が可能かどうか、教員を確認に走らせた。高台から両手で輪を作った「ＯＫ」のサインが見え、避難を開始した。「助けられる人から助ける人へ」。これまでの避難訓練どおり、中学生は小学生、保育園児の手を引き、声をかけて励ましながら避難した。また、小中学生約 600 人が一斉に避難するのを見た近隣の人たちもつられるよう避難を始めた。全員 2 次避難場所の介護福祉施設に到着した。列の後ろに並んだ生徒が駐車場から振り返ると津波が鵜住居地区の町を飲み込んでいく様子が見えた。全員でさらに高台を目指した。学校から避難した生徒全員の無事を確認した。

「岩手県教育委員会東日本大震災津波記録誌（一部抜粋）」

〇南三陸町防災庁舎の悲劇

高さ１５．５メートルの大津波が押し寄せ，高さ１２メートルの防災対策庁舎は鉄骨の骨組だけが残り、隣接していた行政第一庁舎、第二庁舎は流出した。地震観測後、町災害対策本部が設置され，職員が情報収集等に当たっていたが，大津波襲来により庁舎の屋上に避難した。屋上の床上３．５メートルに達する大津波に襲われ，町長ら１１名は生還したが，職員や住民４３名が犠牲になった。防災無線で町民に最後まで避難を呼びかけ犠牲となった女性職員については、全国的に大きく報道され、埼玉県の公立学校の道徳の教材になった。庁舎前には献花台が設置されており、多くの人が手を合わせる場となっている。

「宮城県震災遺構有識者会議報告書」より抜粋

○大川小学校の悲劇

平成２３年（２０１１年）３月１１日（金）１４時４６分、三陸沖を震源とするマグニチュード９．０の地震が発生した。石巻市立大川小学校では、地震当時在校していた児童・教職員が校庭への二次避難を行ったが、その後、保護者等への引渡しにより下校した児童２７名を除く児童７６名、教職員１１名が津波に遭遇し、うち５名（児童４名、教職員１名）を除く多くの児童・教職員が被災した。

当学校は、これまでに津波が到達した記録がなく、住民は大川小学校がいざという時の避難所と認識していたこと、しかも、山と堤防に遮られていて津波の動向が把握できない環境だったこと等が避難を遅らせた要因として挙げられた。

「大川小学校事故検証委員会より（抜粋要約）」

②　阪神淡路大震災（１９９５年１月１７日　午前５時４６分）

タイトル：譲り合い、助け合い・・・他人が身内のように感じられました。

倒壊を免れた近所の方の家で休ませていただいた後、近くの小学校の体育館で避難所生活をはじめました。外に出て最初の驚きは、見慣れた街並みが一変していたこと。近所の古い木造住宅は全滅、塀は道路に崩れ落ちてはるか向こうまで街が見渡せ、被害のひどさを物語っていました。

避難所での生活は辛いこともたくさんありましたが、それ以上に感動させられることもたくさんありました。狭いスペースの中で見知らぬ者同士が場所を譲り合っていたこと、自分の家が潰れてしまって大変だというのに炊き出しに参加する人がいたこと、次にトイレを使う人のためにバケツリレーで水を運ぶという思いやり溢れる行動…どれもが印象的でした。そして電気が復旧して TV がついた時、ほんの少し日常が戻った気がして何とも言えない安心感を覚えたことを思い出します。

人と防災未来センター「震災を語る」より

淡路島の旧北淡町は、兵庫県南部地震の震源地に近く、多くの建物が全半壊となる被害を受けました。しかし、この町では、地域の人が近所の家の情報を持ちより、がれきの下で消えそうになった命を次々に助け出しました。そして、地震発生から約 11 時間後、自衛隊が到着するまでに、生存していた人、亡くなった人、すべての救出を終えていたそうです。

地震の直後、このような助け合いは各地で行われました。阪神・淡路大震災で破壊された家屋から救出された 3 万 5 千人のうち，2 万 7 千人は近所の住民に救出されたといわれています。災害時の救命救助はスピードが大切です。最初の 72 時間（3 日間）がかぎといわれています。しかし、大地震の時は、各地で同時に生き埋めになったり出火したりするので、被災地の消防や警察だけでは救命救助の人数が足りません。全国の消防や警察の応援の到着は早くても２日目、３日目となります。このような状況で、多くの命を救うのは住民の助け合いです。消防や警察が十分につかんでいない家族の状況も、近所の住民なら知っていることもあります。日頃から地域の人と繋がりをもっていれば、一層の防災・減災につながるでしょう。

兵庫県防災教育副読本「明日に生きる」より

③　昭和東南海地震（１９４４年１２月８日　午後１時３６分）

体験手記（南伊勢町　萩原 敏男　当時　19 歳）：

私は第二次世界大戦による招集を受けており、入隊を数日後にひかえて、父とみかん山で大石など重い物の片付けをしていた。突然足下をすくわれる様なはげしい揺れにおそわれ立っていられず、思わずその場に手と膝をついた。津波のことが頭に浮かび、余震の中家に帰り、おびえる牛を引いて高台の家へ避難した。河口からは、はまぼうの林を飲み込むような高さで赤濁りの水が壁のようになって押し寄せてきた。

「みえ防災減災アーカイブより」

※その他のエピソードや手記等を調べる場合は、下記サイトを閲覧ください。

○東日本大震災からの復興（文科省） https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/monbu.htm ・　文部科学白書において、被災地復興における小・中・高の活動事例をまとめています。
○心の復興記録集～東日本大震災を乗り越えて～（平成 28 年 3 月発行）（宮城県） http://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-kkr/recoveryalbum.html ・　宮城県内の小・中・高校生が、東日本大震災からの 5 年間を振り返り、経験から学んだことや実践してきたこと、現在の心境や今後の生き方等について綴った作文 106 点を取りまとめたものです。
○人と防災未来センター「震災を語る」 http://www.dri.ne.jp/material/material_stories ・　「人と防災未来センター」（神戸市中央区）にて自らの体験を生で語る語り部さんのインタビューを掲載しています。
○みえ防災減災アーカイブ http://midori.midimic.jp/ ・　三重県で起こった災害の体験談・証言などをまとめたものです。

３　防災関連ホームページ

①　日本大震災記録

ＮＨＫ東日本大震災アーカイブス https://www2.nhk.or.jp/archives/shinsai/ ・　ＮＨＫがまとめた東日本大震災の被災者の証言や災害映像等を掲載しています。
ひなぎく（ＮＤＬ東日本大震災アーカイブ） http://kn.ndl.go.jp/ ・　国立国会図書館が作成した東日本大震災の災害映像記録等を掲載しています。
東日本大震災アーカイブ宮城 https://kioku.library.pref.miyagi.jp/ ・　宮城県がまとめた東日本大震災の県内市町の災害写真等を掲載しています。
河北新報　震災アーカイブ http://kahoku-archive.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/kahokuweb/?1 ・　東北の地方有力紙である河北新報が東日本大震災の取材で得られた貴重な災害写真等を収録しています。
消防防災博物館　東日本大震災 https://www.bousaihaku.com/contribution/2711/ ・　消防庁作成のインターネット博物館では、東日本大震災のさまざまな写真映像を集約しています。
ＩＣＴ地域の絆保存プロジェクト（宮城県東松島市） http://www.lib-city-hm.jp/lib/2012ICT/shinsai2012.html ・　東松島市では、市内地域別の市民から得られた災害写真等を掲載しています。
たがじょう見聞憶（宮城県多賀城市） http://tagajo.irides.tohoku.ac.jp/index ・　宮城県多賀城市では、市内地域別の市民から得られた災害写真等を掲載しています。

② ハザードマップ

震度予測分布図 http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84541007863.htm ・ 平成２５年度三重県地震被害想定調査において、過去最大・理論上最大クラスの南海トラフ地震等を対象として作成した、地域別の震度予測分布図です。
津波浸水予測図 http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84188007991.htm ・ 三重県が想定した浸水予測図です。
液状化危険度予測分布図 http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84543007860.htm ・ 平成２５年度三重県地震被害想定調査において、過去最大・理論上最大クラスの南海トラフ地震等の想定地震を対象として作成した、地域別の液状化危険度予測図です。
河川の浸水想定区域図 http://www.pref.mie.lg.jp/KASEN/HP/84459046892_00002.htm ・ 河川整備の目標とする降雨により、堤防が決壊した場合のシミュレーションを行い、浸水が想定される区域と深さを求め、それを図化したものが浸水想定区域図です。
土砂災害想定区域図 http://www.pref.mie.lg.jp/HOZEN/HP/06770006284_00003.htm ・ 土砂災害が想定される土地を土砂災害警戒区域、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ住民に著しい危害が生ずるおそれのある土地を土砂災害特別警戒区域として指定します。
土砂災害危険箇所図 http://www1.sabo.pref.mie.jp/mie_gis/start.php ・ 土砂災害危険箇所は、過去の土砂災害の実績等から調査方法を定め、土砂災害の発生及び被害の危険性がある場所として設定したもので、土石流危険渓流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所があります。
県内市町の避難所情報、防災マップ http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000 ・ 三重県及び県内市町のホームページで、避難所情報、防災マップ等を掲載しています。
ハザードマップポータルサイト（国土交通省） http://disaportal.gsi.go.jp/ ・ 全国の市町が作成している、さまざまなハザードマップを一元的に閲覧・検索することができます。

③ 防災学習サイト

津波防災啓発ビデオ（気象庁） http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eq/index.html ・ 津波防災啓発ビデオ「津波に備える」「津波から逃げる」等を収録しており、東日本大震災も踏まえ、津波から命を守るために、備えておきたい津波の知識や避難のポイントを実際の映像やＣＧ、 インタビュー等を使って解説したビデオです。
防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」（気象庁） http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/ ・ 発達した積乱雲が引き起こす「急な大雨」「雷」「竜巻」等の激しい現象に対して、自分の置かれた状況を的確に判断し率先して自他の身の安全を図っていただくことを目的に制作しています。
リーフレット・パンフレット・ポスター（気象庁） http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html#c ・ 気象庁が作成した地震津波や台風等の風水害のリーフレット等が入手できます。
防災危機管理 e-カレッジ https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/ ・ 総務省消防庁が作成した防災教材で入門コース、一般コース、専門コースと分かれています。
まもるいのち　ひろめるぼうさい（日本赤十字社） https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/youth/document/ ・ 東日本大震災を教訓として、日本赤十字社が制作しています。
ＮＰＯ土砂災害防止広報センター http://www.sabopc.or.jp/ ・ 土砂災害防止に関する知識の普及や意識の醸成に一層努めていくため、「防災学習お役立ちページ」を開設しています。

指導者用防災ノート
（小学生（低学年）版）

令和３年６月
三重県教育委員会事務局
教育総務課　学校防災・危機管理班
住所　津市広明町 13 番地
電話　059-224-3301
ＦＡＸ　059-224-2319

［監修・助言］
三重大学大学院工学研究科　准教授
川口　淳